

ゆきさん、鈴木信行さん、藤原瑠美さんの話を聞いて

平成 25 年 10 月 13 日

富田健一郎

ゆきさんの話の中で出てきた、打出喜義さんの「地獄への道は一人一人の善意の小石で敷き詰められている」という言葉は強烈に胸をえぐるようでした。

すごく的を射ていて、どこか胸をすくようでもあり、それでいて一番届かなくてはいけない所に一番届きにくい言葉なのかもしれないとも感じました。

だからこそ、医療福祉倫理を学び、それぞれが責任を全うしていかなくてはという思いを新たにす次第です。

鈴木信行さん、藤原瑠美さんの話は時間的にかなり厳しく、こちらの理解がとても浅く、もっと深く背景を知っているかどうかで、違ってくる事がたくさんあるのが想像出来るようでした。

鈴木さんの話を伺いながら、もっと介護職も言語化、文章化する能力を身に付けて、講演をしたり、発信をしてゆくくらいの力をつけていく事も必要だと思いました。

瑠美さんのテーマ「次の世代にどんな社会を残していくか？」を若い人がどうバトンを受け取り、今の時点でどれだけ「未来の我が事」として受け止められるだろう。

社会を構成する、一人一人に今とても重たい選択、責任が突き付けられている事をひしひし感じる時間でした。